

2020 年度ゼミ (4001 演習 3A/4002 演習 3B) 要覧

| | |
|-----------------|--|
| 担当者名 | 重富真一 |
| 演習テーマ | 社会科学の論文を書く |
| 内容 と 卒業論文の 指導方針 | 卒論も「論文」である以上、社会にとっての新しい発見を目指すものである。解決されねばならない社会の問題は何か、どういう設問を立てて、どうやって答えを出せばよいか、といったことを考え、取り組む訓練をする。 |
| メール・アドレス | shige103@k.meijigakuin.ac.jp |
| オフィス・アワー | 春学期：火（昼休み、3限）、金（昼休み）。秋学期：月（昼休み）、金（2限、昼休み） |
| 授業概要 | 学生と教員、学生同士の対話を通じて、学んでいく。担当教員は開発途上国、農業・食料、農村、社会運動に関する分野を専門としているが、それ以外のテーマでも卒論に意欲的に取り組む学生ならば受け入れる。 なお春学期（演習 3A）は、文献講読も並行して行う。 |
| 学習目標 | 「社会科学の論文を書く」という経験を通して、科学的な思考方法、情報の収集と整理方法、そして論述の方法を学ぶ。 |
| 授業計画 | 以下のようなスケジュールで卒論を作成していく。 4-5月：卒論の Research question を固める。 6-7月：関連する先行研究や予備的調査をおこない、卒論の大まかな骨子を作る。 （夏休み中、各自でデータ収集をおこなう） 9月：ゼミ合宿で春学期と夏休みに集めたデータを発表する。 10-11月：データ収集と卒論の詳細な骨子作成 12月：卒論の執筆。 |
| 予習 | 報告課題について準備する。 |
| 復習 | ゼミで指摘された課題について取り組む。 |
| 授業に関する注意事項 | ゼミは出席してこそ意味があるので、その点での規律を強く求める。サブゼミを組織したり、オフィスアワーを積極的に利用すること。 |
| 教科書 | ゼミで指示する |
| 参考書 | ゼミで指示する |
| 成績評価の基準 | ゼミへの参加度（報告と発言など）40%、卒論への取り組み状況 60% |
| 関連 URL | なし |
| 備考 | 演習は金曜 4 限であるが、時間を延長しておこなうことがある。 |

